

人のご縁で でっかぐまきか!

南クロフネカンパニー代表

中村 文昭

三重県内の高額納税者に片っ端から会いに行ったお陰で、随分お金持ちと仲良しになりました。中にはポロカス言われることもあって、「お前、そんだけポロカス言われてよう諦めんな」ってよく仲間から言われました。

だけど僕はモチベーションを維持する方法を持っていたんです。それはポロカス言われたことを全部ノートに書きとめていたんです。「〇年〇月〇日、〇〇の社長にからこんなポロカス言われた」と、すごく細かく書いてました。

なんでそんなノートをつけていたかと言うと、当時23歳だったんですけど、将来、結婚して子どもができれば、その子どもが僕に「父ちゃん、俺、こんなことがしたいんや」と言い出すと思うんです。そのとき、僕は「お前にそんなこと出来んよ。無理や」みたいなことは絶対言わないと思うんです。そして、子どもが自分の夢に向かって頑張る。でもなか

将来で出会うであろうわが子の為に

◇8◇

なかうまくいかない。そのうち諦めようと思います。

僕は子どもにお金の援助はしないと決めていて、代わりにそのノートをプレゼントしようと思っていました。

「お前な、やるなら諦めるな。人からどんなこと言われても自分のやりたいことを貫け。お前の親父はろくな人間じゃないけど、諦めなかった人間なんや」と、そのノートを見せながら言ってると思うっていたんです。

そしたら子どもは壁にぶつかったとき、自分の中の遺伝子が信じられる。自分の中に流れている血が支えてくれる。自分の親父はあんなにポロカス言われても諦めないでやり続けたと思える。これが子どもを励ます最高の材料やと思っただけです。



だってね、成功した話なんかしても、「それは父ちゃんの時代だからだよ。それは父ちゃんがラッキーだったからだよ」と言われたら、それで終わりです。

でも具体的な失敗を綴ったノートだったら、確実に励ますことができます。そう思って僕は、将来出会うであろうわが子に自分の生きざまを伝えるためのネタ帳を作ることでもモチベーションを維持してました。ポロカス言われて、それを書きながらワクワクしていました。

もし、お金持ちが三重県で見つからなかったら愛知県、それでも駄目だったら静岡県に行くって思っていました。どこかで絶対ドラマチックな出会いがあることを信じて。

結局2年半断られ続けました。でも2年半後、当時僕は25歳でしたけど、その時に巡り合ったあるおじいさんが全財産を僕のために担保に入れてくれました。保証人になってくれたんです。一緒に銀行にも行ってください。この子が失敗したら尻ぬぐいは全部俺がするからこいつの言うだけの金を段取りしてくださいって言うてくれました。そのおじいさんは僕の事業計画書も見ないんです。支店長もその方には何も言えなかったです。

それで2億3000万、全額借金です。そして命懸けでレストラン建設をやりました。

(高鍋西都法人会が主催した講演会にて)